

上島先生在外研究報告会

(報告会概要)

上島先生在外研究報告会

第一部[10:40~11:25]

<研究発表>

『The Increasing Importance of  
Education in Japanese Manufacturing  
industries 1954-1997』

第二部[11:30~12:10]

<海外事情>

『オーストラリア 365日』

※上記二部のいずれか一つだけの参加も可。

日時 2011年12月7日(水)

場所 2号館1階213講義室

※掲示資料より抜粋。

(感想 by 学生評議員スタッフ)

12月7日2限の時間帯に行われた、上島先生  
在外研究報告会に参加しました。2部構成で  
行われ、第1部では教育格差が将来の所得格  
差を生み出す要因になっているのではないか  
等教育の重要性が産業に与える影響につい  
ての報告をされました。特に興味深かつたこ  
とは、日本の教育レベルは世界的に見て高いレ  
ベルに位置しているが、勉強することに関心  
がなく、どちらかというと勉強しておかない  
と不安だから勉強しているという傾向が見ら  
れることで、驚きました。まとめとして、先  
生がおっしゃったこととして、「勉強をさせる  
ためのインセンティブを考えるのではなくて、  
勉強を自ら進んで行うような動機付けをさせ  
る教育が必要とされているのではないか？」  
という言葉が非常に心に残りました。

第2部では、オーストラリアのシドニーでの  
生活体験談について語って頂きました。シド  
ニーでの生活では、多くの現地の人や留學生  
の方との思い出について話され、とても満喫  
された生活を送られたと感じました。最後に、  
海外に出かけたことで非常に多くの人々と友  
達になることができ、非常にいい経験になっ  
たということ聞き、海外への関心がある自  
分としては、非常に心を動かされた話でした。  
今回の在外研究報告会に参加し、上島先生の  
研究内容の報告やシドニーでの生活など、普  
段お聞きすることが出来ない話を聞くことが  
出来、とても有意義な時間を過ごすことが  
でき、海外留学を本気で考える誘因になった報  
告会でした。

(S・I)



上島先生は1年間、オーストラリアのシドニーに留学に行かれ、教育が産業、そして経済成長にどれだけの影響があるか、ということについて研究された。今回は、その研究内容についての報告と、シドニーで生活した体験談をお話いただきました。

詰め込み教育の反省からのゆとり教育、そしてまた揺り戻しがあった日本の教育だが、本当に教育の効果を測ろうと思ったら、学業に専念している期間だけではなく、大人になってからも図るべきだという研究者もあるらしく、生涯を通じて学び続ける姿勢があるかどうか問われる時代になってきている。

6歳になったら小学校に入り、周りが塾に通い始めるから塾に通って、無理をしてまで私立の中学・高校に入り、将来の高収入を期待して予備校に通いながらも大学受験をするというのが、世間一般に期待される進学モデルだと考えられている。人によっては小学校も私立を、更には未就学の内に「お受験」をさせる親もある。(少数派かもしれない、あるいはメディアが意図的に避けているだけかもしれないが、どこの進学しようと無関心・非干渉の親もいる。)

しかし、そうやってやらないと不安だからやるという姿勢では、社会に通用する実力は付かない。大切なのは、強制されてやる消極的・脅迫的な体質による「勉強」ではなく、自分から進んで何かを「学習」しようという積極的・意欲的な芽を摘まずに育てていくこと。そのために親や教育関係者は、周りに最低限必要な環境を整えるだけに留めることが肝要になってくる。諺で「馬を湖まで連れて行くことはできるが、水を飲ませることはできない。」というのも、この考えにつながるのだろう。

要するに、自発的に(就学期間だけでなく)生涯を通じて学んでいく姿勢がないと、世界と対等に渡り合っていくことが出来る人材が育たず、長い目で見たときに経済が発展していかないのだろう。

(H・O)

#### 編集後記

一志は高く、腰は低く、幸せは長く、挨拶は短く一学会ニュースもこれで第7号を数えるまでになりました。今年度は「巧遅より拙速」ということで、デザインには殆ど時間を掛けずに量産することにしたのですが、いかがだったでしょうか？

各号のテーマを少し振り返っておきます。

まず第1号は総会と砂村賢記念図書賞と(前期)講演会の感想、続いて第2号は学生評議員による推薦図書、第3号は前号に載せられなかった推薦図書の残りとして少し遊び要素を入れようということで入れたクイズ、そして企画委員から社会見学の宣伝、それから第4号は後期講演会の感想と前号のクイズの回答、ここからは立て続けに、第5号は社会見学の概要と感想、第6号は第41回インナーゼミナール大会の概要と感想、そしてこの第7号は上島先生在外研究報告会の概要感想を掲載しました。少しずつ改善したつもりですが、もしかしたら改悪されたと思われた方もいらっしゃるかも知れませんね。

どれだけの方が全号読まれたのか判りませんが、1年間お付き合いいただき有難うございます。私は現在3回生で、来年度は現2回生に執筆を委譲しようと考えていますので、形式や内容に変化があるかも知れませんが、来年度以降も引き続き学会ニュースが読まれることを望む次第です。

(H・O)